

# 中高科へのヒント 1~3月

1/4

## ●話し合ってみよう

1. 主の語られた福音を理解したのはどのような人だったか。→ 幼子のような人たち。
2. 主が招かれたのはどのような人々だったか。→ 律法という重荷に苦しんでいる人々。
3. 宗教指導者たちは、規定を守るように人々に要求したが、自分たちはどうであったか。→ 守り通すことができなかった。

## ●考えてみよう

1. 主は「わたしのもとにきなさい」と言われた。パリサイ人たちの招きと、主の招きとの違いは何か。→ パリサイ人たちが招くのは、あくまでも律法そのものにであったのに対し、イエス様はご自身のもとに招かれた。
2. 主は「わたしのくびきを負いなさい」と言われた。どういう意味か。→ イエス様ご自身とその教えとに従うことへの招き、主が重荷を共に負ってくださるということ。
3. 魂に休みが与えられるとはどういうことか。→ 律法を守ろうとする努力ではなく、主の愛の中で主と共に歩む平安が魂に満ちあふれること。

## ●自分に当てはめよう

1. あなたは罪という重荷に苦しんではいないだろうか。その罪の重荷は自分でなんとかできるだろうか。→ できない。
2. 主のくびきを負うには自分の弱さを認めなければならない。あなたは認めているだろうか。→ 認めて主に委ね従っていこう。

1/11

## ●話し合ってみよう

1. イエス様の話を聞こうとして近寄ってきたのは、どのような人々だったか。→ 取税人や罪人たち。
2. 上記1.の様子を見て、つぶやいた人々がいる。どんな人々だったか。→ パリサイ人や律法学者たち。
3. 100匹の羊を持っている人の1匹の羊がいなくなった。羊飼いはどうしたか。→ 見つけるまで捜し歩いた。
4. 上記3.の答えから何が分かるか。→ いなくなった羊がかけがえのない羊であったこと。

## ●考えてみよう

1. 「羊飼ひ」「迷子の羊」は何を表しているだろうか。→ 迷子の羊は、人間を、羊飼ひは、その人間を捜し出す神様を表している。
2. 迷った羊には危険があった。それは何か。→ 狼の餌食になるか、がけから落ちるなどの危険があった。
3. 迷った羊は、自分で羊飼ひのもとに帰ることができただろうか。→ 道に迷ってできなかった。
4. 羊飼ひは迷い出た羊を見つけた喜びを、近所の人々と分かち合った。このことから何が考えられるか。→ 神様は罪人が神様に立ち返ったときに、大いに喜ばれる。

## ●自分に当てはめよう

1. この迷った羊に自分たちの姿が重なるが、どのようなところが重なるか。→ 神様から離れて罪に陥り滅びに向かっていたところ。

1/18

## ●話し合ってみよう

1. このベテスダの池の水は、時々動いたようである。当時は、このことがどのような理由からと考えられていたか。→ 主の御使いが、この池に降りて来て、水を動かしていると考えた。
2. 動いた水と病人の関係はどのようなものであったか。→ この動いた水に真っ先に入る者は癒される<sup>いや</sup>とも考えられていた。

## ●考えてみよう

1. この池で何が起こっていたか。→ 水が動いた時に、病人たちの中で、誰よりも先に飛び込むという競争が起こっていた。
2. ここにいつも人に遅れて、入れないでいる人がいた。どのような人だったか。→ 38年の間、病気に悩んでいる人。
3. イエス様は、この人に声をかけられた。どのような呼びかけだったか。→ 「なおりたいのか」。
4. この男は何と答えたか。→ 自分を助けてくれる人は一人もいないという内容であった。
5. 上記4.から何が分かるか。→ 彼は絶望という深い淵<sup>ふち</sup>に沈んでいた。
6. イエス様は次にこの男に何と言われたか。→ 「起きて、あなたの床を取りあげ、そして歩きなさい」。

## ●自分に当てはめよう

1. この人は、人に頼ることができないことが明白となっていた。あなたがこの人の立場だったらどうするか。

1/25

●話し合ってみよう

1. イエス様はある町をお通りになった。何という町か。→ エリコ。
2. その町で、イエス様に叫びだした人がいた。どんな人だったか。→ 一人の視覚障がい者。
3. 彼はイエス様に何と叫んだか。→ 「ダビデの子イエスよ、わたしをあわれんで下さい」。
4. 彼はどうして、イエス様にこのように叫んだのか。→ イエス様は目の見えないのを癒してくださると、希望を持ってのこと。

●考えてみよう

1. この視覚障がい者の叫びには、どのような心が含まれているか。→ ①癒しを求める叫び、②罪の重荷からの叫び、③聖い者とされたいという魂の叫び。
2. この視覚障がい者の叫びは、すぐにイエス様に届いたか。→ いいえ、先頭に立つ人々が、彼をしかって黙らせようとした。
3. 上記1. を受けて彼はどうしたか。→ ますます激しく叫んだ。
4. イエス様はこの視覚障がい者に何と言われたか。→ 「わたしに何をしてほしいのか」。
5. 視覚障がい者は何と答えたか。→ 「見えるようになることです」。ここに明確な求めがある。ここから祈りの明確化も示される。

●自分に当てはめよう

1. あなたには、どんな魂の叫びがあるか。→ (例) 愛する者の救いを求める叫び。

2/1

●話し合ってみよう

1. イエス様のところに、運ばれてきた人がいる。どんな人か。→ 中風の者。
2. この人は、すぐにイエス様に会えたか。→ 会えなかった。
3. 上記2. の後、この人を運んできた人々は、どうしたか。→ 群衆のためイエス様に近づけなかったので、屋根に上り、中風の人を寝台ごと吊り降ろした。

●考えてみよう

1. この運ばれてきた人と、運んできた人に、イエス様はどのような反応を示されたか。→ 「子よ、しっかりしなさい。あなたの罪はゆるされたのだ」と言われた。
2. 当時の病気に対する考え方はどうだったか。→ 罪の結果とする因果応報的な考え方があった。
3. イエス様の考えは、当時の考えと同じか。→ 違う。むしろ、その考えを否定された。
4. イエス様の言葉を聞いた、律法学者たちは心でどう思ったか。→ 「この人は神を汚している」と思った。
5. 罪を赦す権威は、神様にのみある。イエス様がこの宣言をされたということは何を意味しているか。→ イエス様が神様であるということ。

●自分に当てはめよう

1. あなたは罪の赦しの宣言を主からいただいたか。
2. 中風の人を運んだ友人のように、友を主に導こう。

2/8

●話し合ってみよう

1. イエス様は向こう岸へ渡ろうと弟子たちに言われた。何という湖を渡ろうとされたか。→ ガリラヤ湖。
2. イエス様と弟子たちは、群衆をあとにして、湖を渡ってどこに行こうとされたか。→ ゲラサ人の地。
3. 湖を舟で渡っているときに、何が起こったか。→ 激しい突風が起こり、波が舟の中に打ち込んできて、沈みそうになった。
4. このときイエス様はどうしていたか。→ 舳のほうで、まくらをして眠っておられた。
5. 上記の4. のイエス様の姿から何がわかるか。→ 疲れておられた。父なる神様との平安の中におられた。

●考えてみよう

1. 湖の上に起こった出来事の中で、弟子たちはどうしたか。→ 死を予感し、心乱れ、慌てた。
2. イエス様は弟子たちに何を教えようとしておられたか。→ 神様への信頼。
3. 嵐がイエス様の言葉でやんだことで、弟子たちはどう感じたか。→ イエス様の神性を知り、聖なる恐れを感じた。
4. 嵐を静められたイエス様から何がわかるか。→ イエス様は自然界を支配される方であること。

●自分に当てはめよう

1. あなたは人生の中で恐れることはないか。イエス様は助けてくださる。

2/15

●話し合ってみよう

1. 会堂司の一人が死にかかっている娘を助けてくださいと、イエス様に願い出た。イエス様はどうされたか。→ 彼の娘のところにでかけた。
2. その時、途中で何が起こったか。→ 12年間長血をわずらった女性が現れ、主に癒されるということが起こった。
3. 上記2. の出来事の後には、娘はどうなったか。→ 娘は亡くなってしまった。

●考えてみよう

1. イエス様の「恐れることはない。ただ信じなさい」という言葉から何がわかるか。→ これは慰めや気休めの言葉ではない。救いに至る信仰を引き出すための言葉であった。
2. イエス様がヤイロの家に行ったとき、周りの状態はどうであったか。→ 人々が大声で泣いたり、騒いだりしていた。
3. イエス様は3人の弟子、ペテロ、ヤコブ、ヨハネをつれて、ヤイロの家に入って行った。なぜか。→ 弟子たちの中で、この3人を将来の宣教のリーダーとして選ばれ、期待されていたこと。
4. イエス様はヤイロの娘に「少女よ、さあ、起きなさい」と言われた。ここから何がわかるか。→ 人間を支配する死の法則さえも、イエス様は乗り越えることができるということ。

●自分に当てはめよう

1. 主は少女に食物を与え、彼女の体のため配慮された。私たちのことも配慮される主である。

2/22

●話し合ってみよう

1. コリントはどのような町であったか。→ 地中海交易の拠点として繁栄していたギリシャの都市。
2. コリント教会には、多くの問題があった。それはあるものが欠如していたためとパウロは考えたようである。その欠けたものとは何か。→ 愛が欠けていた。
3. 教会で用いる愛という言葉には、どんな意味が含まれているか。→ 無償の愛、無代価の愛、条件をつけない愛。

●考えてみよう

1. 具体的にコリント教会の問題とは何か。→ 不道德、貧者に対する差別や、教会の秩序の乱れなど。
2. コリント教会の問題の根底に何があったか。→ 高ぶり。
3. パウロが13章を書いた目的は何か。→ 健全な信仰生活と健全な教会生活の営みのため。
4. キリストの教会の信徒が一つに結ばれるのは何によってか。→ 主の愛によって。
5. 上記3. の答えは、教会のどんな動力になると思うか。→ 主体的、積極的に人に仕える動力。

●自分に当てはめよう

1. 「愛はいつまでも絶えることはない」(8節) とある。あなたはこの愛に満たされたいと思うか。どうしたら与えられるか。→ 信仰によって。

3/1

●話し合ってみよう

1. ベタニヤにきたイエス様のニュースを聞いたマルタとマリヤの行動はどうだったか。→ マルタはイエス様を出迎えに行き、マリヤは家ですわっていた。
2. マルタの「主よ、もしあなたがここにいて下さったなら、わたしの兄弟は死ななかつたでしょう」という言葉から何がわかるか。→ 弟を助けてもらえなかつた残念さ。
3. イエス様が「あなたの兄弟はよみがえるであろう」と言われた言葉を聞いたマルタの答えから何がわかるか。→ 終りの日、将来のよみがえりのことであって、現在のことでないと思ったこと。

●考えてみよう

1. イエス様は「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる」と言われた。どういう意味か。→ ご自分を信じる者の内には今すでに復活のいのち、永遠のいのちが与えられているという意味。
2. イエス様は、ユダヤ人たちが泣いているのを見て、激しく感動し、また心を騒がせた。どういうことか。→ アダムの墮罪によって全人類にもたらされた死に対する憤り、人々の不信仰に対する憤りであっただろう。

●自分に当てはめよう

1. あなたは、主の復活のいのち、永遠のいのちにあずかっている確信があるか。→ 私たちもイエス様を救い主と信じて復活のいのちに生かされよう。

3/8

●話し合ってみよう

1. 過ぎ越しの祭りの6日前に、イエス様はベタニヤに行かれた。そこは誰がいた所だったか。→ 死人の中からよみがえらされたラザロのいた所。
2. ここでイエス様は自覚しておられたことがある。それは何か。→ ご自分の受難の時が間近に迫っていること。

●考えてみよう

1. 当時、女性が人前で髪の毛をほどくのは恥ずべきことであり、足をふくのは卑しい者の仕事とされていたのに、マリヤはそうすることによって、何を表わしたかったのか。→ イエス様に対する愛と感謝と献身。
2. このマリヤに弟子の一人から思いやりのない言葉が発せられた。それは「無駄」という内容の言葉だった。しかし、本当に無駄だったのだろうか。→ いいえ、無駄を惜しまない愛の表れだった。
3. 地上に生存するイエス様に仕える機会はいつもあっただろうか。→ この時以外にはない。
4. マリヤのした行為を、ご自身の葬りのためにとイエス様は言われた。どういうことか。→ マリヤはイエス様の死がそう遠くないことを、イエス様に対する愛と霊的洞察力によって直感してした行為だったのだろう。

●自分に当てはめよう

1. あなたのイエス様への愛と感謝と献身の思いはどうだろうか。

3/15

●話し合ってみよう

1. イエス様は、ベテパゲとベタニヤに近づかれたとき、「つながれているろばの子を解いて連れてきなさい」と、二人の弟子に言われた。それはなぜか。→ エルサレムに入城する際に用いようとされて。
2. この二人は、イエス様に言われたとおりのろばの子を連れてくることができたか。→ できた。ろばの子の持ち主が「なぜ解くのか」と言われた時、二人の弟子は、「主がお入り用なのです」と答えると、それを許可してくれた。

●考えてみよう

1. なぜ馬ではなく、ろばの子なのか。→ 馬であれば軍馬を思わせ、軍事力で治める王を表すことになる。イエス様は、ろばの子に乗られることで、平和の王であることを表された。
2. ろばの子に乗って、エルサレムに入城されるイエス様は預言されていたか。→ 旧約聖書のゼカリヤ9章9、10節にろばに乗られる王が預言されていた。
3. ろばの子はイエス様をお乗せした。それは何を意味するか。→ とても役には立たないと思える小さいろばの子を用いられたイエス様は、このようにどんな人をも用いられる。

●自分に当てはめよう

1. イエス様が「主がお入り用なのです」とあなたに声をかけられたら、あなたは何と答えるか。→ 主に心からお仕えしていこう。

3/22

●話し合ってみよう

1. イエス様はここで悟っておられる。その悟っておられることとは何か。→ この世を去って父のみもとに行くべき自分の時がきたこと。
2. イエス様には残された時間はわずかだった。その残された時間とは何の時間か。→ 十字架のご受難を前にして、残された時間。

3. この時イエス様への裏切りを心に秘め、実行しようとしていた弟子がいた。それは誰か。→ イスカリオテのユダ。

●考えてみよう

1. 弟子たちの足を洗われたイエス様を見て、ペテロは何と言ったか。→ 「わたしの足を決して洗わないで下さい」。
2. ペテロの言葉を受けて、イエス様は何と言われたか。→ 「もしわたしが足を洗わないなら、あなたはわたしとなんの係わりもなくなる」。
3. イエス様の洗足は何を意味しているか。→ 十字架による贖い。
4. 「なんの関わりもなくなる」とはどういうことか。→ 神様との和解もなく、天国の分け前を得られなくなる。

●自分に当てはめよう

1. イエス様は「わたしが、あなたがたの足を洗ったからには、あなたがたもまた、互(い)に足を洗い合うべきである」と言われた。私たちのすることとは、何か。→ 互いに赦し合い、愛し合い祈り合い、仕え合う者とさせていただくこと。

3/29

●話し合ってみよう

1. 弟子たちは過ぎ越しの食事をどこでするのか、あらかじめイエス様によって知らされていたか。→ いいえ。
2. なぜ上記1. のようにしたのか。→ ユダヤ人たちに場所が知られると、イエス様を捕まえに来るため。
3. イエス様は、過ぎ越しの食事をどのような思いで待たれていたか。→ 弟子たちと食事をすることを心から切に望んでおられた。

●考えてみよう

1. イエス様の定められた聖餐は、新しい契約と言われている(20節)。どういう意味で新しいのか。→ 旧約時代、罪のための動物の犠牲が捧げられて、神様への罪が赦されることとされていた。それが新約では、イエス・キリストの十字架と復活による新しい完全な罪の赦しに代わるということ。
2. イエス様は、「神の国で過越が成就する時まで、わたしは二度と、この過越の食事をすることはない」(16節)と言われた。それはどういう意味か。→ やがて私たちが天の御国に入った時に、イエス様を中心とした豊かな交わりの生活に入る。この聖餐はそれを予表している。

●自分に当てはめよう

1. 私たちが聖餐式に与るたびに、キリストの体につながる者として、主が開いてくださる宴の中に、主との愛の交わりに与りつつ、神の国を待ち望む者とされたい。